

◆「新しい川崎」メール版◆

－2026年3月31日第222号－

<目次>

● 川崎民主市政をつくる会の2026年度方針決まる

◆ 10年、20年後の川崎のまちの姿は？

★ お知らせコーナー

① ～5/10 川崎平和館「川崎大空襲記録展」戦時下の市民生活と川崎大空襲

② 4/17～ 中原空襲展

③ 『4・19 国会正門前大行動』

④ 4/26 ゆめシネマ上映会「タイムグラバあちゃん」

★ 編集後記

● 川崎民主市政をつくる会の2026年度方針決まる

川崎民主市政をつくる会は、3月27日、定例幹事会を開き、2025年度の活動の総括と2026年度の活動方針を決め、2029年市長選に向けて再始動しました。

<福田市政の大企業優先・市民生活後回し、公共施設の統廃合の見直しを求める>

最初に、4期目に入った福田市政をどうとらえるかを、共産党市議団長の宗田議員の報告をもとに、話し合いました。

「近い将来の人口減少と急速な高齢化」に備えるためとして、公共施設の統廃合を加速しています。

川崎区では、大師支所と大師子ども文化センターと大師老人いこいの家が統廃合され、大師コミュニティセンターになります。

これにより、支所機能は移管されず、職員を100人も削減します。さらに、田島支所と田島子ども文化センターと老人いこいの家が統廃合され、田島コミュニティセンターになります。

ここでも、支所機能がなくなり、職員を100人も削減します。

また、富士見プール、小田プールが廃止、ヨネッティが休館となり、公営プールが川崎区ではゼロになります。

川崎区を皮切りに、他の区でも公共施設の統廃合を広げる計画です。  
税金を大規模開発優先で使い、市民の暮らしに必要な施策は縮小するという乱暴な施策に、各地域で市民からの苦情が上がり、反対の運動も始まっています。

川崎民主市政をつくる会は、市民とともに、川崎市政の転換を求めています。  
重大な市政問題をテーマにした学習会を企画し開催していきます。

### <要求で一致する市民・市民団体との共同行動を進めます>

多くの住民運動やグループが市内で自らの要求実現のために活発に取り組んでいるのも川崎市の特徴です。

これらの団体と丁寧に話し合い、要求実現で一致した1点での幅広い共同をつくり、運動を進めることも重視していきます。

### <市政の転換をめざす川崎民主市政をつくる会の活動を多くの市民に知らせていきます>

① 川崎民主市政をつくる会のホームページのアクセス数は1カ月で1000を超えています。

今年の1月には、1900件のアクセスがありました。

ホームページのリニューアルや日常の更新のために、担当者を配置し、予算化をすることで、安定した運営ができています。

メルマガ「新しい川崎」は、2022年1月より発行を開始し、この3月24日で、221号となりました。

毎週火曜日の朝6時に、1度も欠配することなく発信を続けることができました。

② メルマガ「新しい川崎」の編集方針は、第1に「チェンジ川崎」をめざす市民の活動を紹介し、

第2に福田市政と市議会の動きを批判的視点視点を報道することです。第3に、市民運動からの寄稿も呼びかけています。

第4に、お役立ち情報として、「お知らせコーナー」を作り、市民から提供されたイベントなどをできるだけ多く載せています。

このメルマガは、川崎民主市政をつくる会のホームページとリンクし、全号をアーカイブとして読めます。

「川崎の市民運動や川崎市政の動きを知るならここを検索せよ!」、と評価されることを

めざします。

ホームページやメルマガ編集スタッフへの参加を呼びかけます。

この幹事会では、2026年度の役員を選出し、2029年市長選に向けての再始動の決意を固める場となりました。

読者のみなさんから、ぜひ、会への意見、要望をお寄せください。

(川崎民主市政をつくる会事務局)

## ◆ 10年、20年後の川崎のまちの姿は？

### <川崎市が掲げる「10年後の川崎」のイメージは？>

3月市議会で、川崎市の10年後を見通した「総合計画」が決まりました。そこでは、まちづくりの基本目標として「安心のふるさとづくり」「力強い産業都市づくり」を掲げ、5つの基本政策を提案しています。

- ① 生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり
- ② 子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり
- ③ 市民生活を豊かにする環境づくり
- ④ 活力と魅力あふれる力強い都市づくり
- ⑤ 誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり

[※全文を読むにはここから](#)

### <川崎市が今進めている施策が進めば、「10年後の川崎」のイメージは？>

現実に市内各地ですでに進んでいる川崎市のまちづくりをもとに10年後を想像してみました。

- ① 町から、独立した子ども文化センター、老人いこいの家、役所分室がなくなります。

- ② 人口は増えているのに、公共施設が統廃合され、各所で利用者の不便さが際立ちます。
- ③ JFE が撤退した扇島には、水素輸入基地ができ、貯蔵タンクが林立し、税金を大量につぎ込んだ再開発が進みます。
- ④ 高さ 40 メートル、幅 230m の西加瀬の巨大物流倉庫が完成し、大型トラックを含めて 1350 台の車が増え、幹線道路も生活道路も、車優先社会となります。
- ⑤ 武蔵小杉、登戸、鷺沼などの駅再開発が進み、タワーマンションが増え、民間ディベロッパーが潤い、偏った人口増がすすみます。
- ⑥ 「多摩川格差」は解消されず、子育て世帯の市外流出がさらに進みます。
- ⑦ 等々力緑地の再整備が進み、貴重な樹木 1000 本が伐採され、その後に、10 以上の民間施設が立ならび、お金を使わなければ楽しめない場になります。

こんな 10 年後のかわさきに、みなさんは住み続けたいですか？

<笑顔あふれる「10 年後のかわさきのまち」を市民の力でデザインし、創り手になろう>

川崎は、市民による各地域での運動がとても盛んな町です。本来なら川崎市の自治体職員と共同して、いつまでも住みたいまち・川崎をつくる可能性はあると思います。しかし、そのためには、共同の大きなビジョンが必要です。

明日から 4 月、2026 年度が始まります。読者のみなさん、あなたの 10 年後のまちづくりイメージをお寄せください。メルマガ「新しい川崎」も、笑顔あふれる「10 年後のかわさき」の描き手になる努力を続けます。ご一緒に、市民の総合計画ビジョンをつくりましょう。(I)

#### ★ お知らせコーナー

##### ① 川崎平和館「川崎大空襲記録展」戦時下の市民生活と川崎大空襲

3/7～5/10 まで

川崎市平和館

主催 川崎市平和館

入場無料

## ② 中原空襲展

4/17～22

中原市民館 1階ギャラリー

主催 川崎中原の空襲・戦災を記録する会

入場無料

## ③ 『4・19 国会正門前大行動』

<https://sogakari.com/?p=8590>

4/19(日)14時から

共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

／9条改憲 NO！全国市民アクション

※4月19日に予定していた川崎民主市政をつくる会のタウンミーティングは5月に延期します。

※市内の南中北の各方面で、一緒に行こうという計画があれば教えてください。次号で掲載します。

## ④ ゆめシネマ上映会「タイマグラばあちゃん」

4/26 ①9時 ②12時 ③15時

かわさきゆめホール

岩手県のほぼ真ん中に位置する早池峰山の麓に戦後、“タイマグラ”と呼ばれる小さな開拓地がつくられ10軒あまりの農家が入植した。

しかし、東京オリンピックの頃までにはほとんどの家が去り、残ったのは向田久米蔵さん、マサヨさんの夫婦二人だけだ。そして。

[予告動画](#)

### ★編集後記

4月1日から道路交通法が改定されます。

そして、マスコミでもネットでも「自転車安全利用5則」をたびたび耳にします。

もう「耳にタコ！」の方もいると思いますが再掲します。

① 車道が原則、左側を通行、歩道は例外、歩行者優先

② 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認

③ 夜間はライトを点灯

④ 飲酒運転は禁止

⑤ ヘルメットを着用

私のまわりでも、「急いでヘルメットを買いました」とか「車道を走れとか、ヘルメットをかぶれとか言われるならもう自転車はやめようか」とか、「もう青切符を切られた」とかの話題が付きません。

しかし、どこかがおかしいと思いませんか。

狭い車道に記された自転車用のマーキングを走るのは、自動車とぶつかれば生命の危険があるのに、それを原則とする？力の差がありすぎなのに、同じ土俵で勝負しろと同じです。

また、マーキングがあっても、駐車している車で寸断されて車道側に大きくはみださなければ前進できない。

どう考えても、車優先の法律改定です。

どこかがおかしい…。

そんなとき、年金者組合の「ねんきんニュース4月号」の「自転車にのる方へ」記事に出会いました。

「道路道幅が狭いことを柵にあげて取り締まりだけをする。

行政は「自分の行き届かない」をどう責任をとるのか。」のくんだりでは思わず拍手しました。

そうだ、これはどんなまちづくりをするのかの問題なのだ。

さらに、「世界に学ぶ自転車都市のつくり方」という本があることを知り、さっそく、入手し読んでみました。

そのまえがきの冒頭部分を紹介します。

「世界は今、自転車都市を目指す動きが加速している。車中心の100年で失われた人のための街路をよみがえらせるため、社会に関わる機会の格差解消のため、また、気候危機対策として、あらゆる年齢・能力の人に徒歩や公共交通とともに、自転車が選ばれる環境づ

くりが進んでいるのだ。」

今週のメルマガ第2記事で「10年後、20年後の川崎のまちの姿は」を記載しています。そのための大事な視点が「人と暮らしが中心のまちとみちのデザイン」（この本の表紙のことば）なのではないでしょうか。（H）

※引用した本を紹介します。

[「世界に学ぶ自転車都市のつくりかた」](#)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

[mailmag@newkawasaki.jp](mailto:mailmag@newkawasaki.jp)

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆